



7508 重伝建地区における歴史的景観保全と環境整備 の関係に関する研究 その1 : 街路形態・土地利用か らみた重伝建地区の分類を通して(歴史的景観(2), 都 市計画, 2014年度日本建築学会大会(近畿)学術講演…

比奈本, 洋太
川崎, 直哉
金, 翔賢
山口, 秀文
山崎, 寿一

(Citation)

学術講演梗概集, 2014(都市計画):1105-1106

(Issue Date)

2014-09-12

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(Rights)

本文データは学協会の許諾に基づきCiNiiから複製したものである

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90003078>



重伝建地区における歴史的景観保全と環境整備の関係に関する研究 その1

-街路形態・土地利用からみた重伝建地区の分類を通して-

重要伝統的建造物群保存地区 景観保全
生活空間 環境整備 観光正会員 比奈本 洋太* 正会員 山口秀文***
準会員 ○川崎直哉** 同 山崎寿一****
同 金翔賢**

1. はじめに

1.1 研究の背景

歴史的町並みを保全する制度として、1975 年に伝統的建造物群保存地区制度(以下伝建制度)が発足し、2013 年 11 月現在、84 市町村で 104 の重要伝統的建造物群保存地区(以下重伝建地区)が選定されている。

重伝建地区は人が居住する建造物群の保存であるため、凍結的な保存ではなく一定の変化を許容している点に特徴がある。従来の保存計画では、建築物の新築・増築に対して、伝統的な町並み景観に影響を与えるオモテ面に対して通りの修景方針や規制を設け、文化的・観光的に重要なオモテの景観の保存・修景に重きをおいてきた。

一方、保存地区のウラ側に視点を移すと、オモテの景観保全に対して規制の少ないウラ側に生活の中心が移る変容をみせる地域や観光地化の影響に伴いウラ側を整備することで観光対応をみせる地域等が既往研究によって報告されている。また、地域の構造上ウラ側に重要な意味をもつ地域も存在しており、「文化財」「生活空間」「観光地」としての機能を併せ持つ重伝建地区に表れる課題に対応するためには従来のオモテ重視の実態把握や保存計画手法では十分といえず、ウラ側のもつ意味や可能性を含めた環境整備理論の構築が必要である。

1.2 研究の目的

本研究では、歴史的町並みを扱う視点として、従来の保存計画では十分に配慮されてきたとはいえない、地区のウラ側に着目することで歴史的町並み保存の新たな展開の可能性を示すことを目指している。

全国町並み保存調査報告書と地区ごとの保存計画を基礎資料に全国の重伝建をその街路形態によって分類を行い、それぞれのウラの土地利用についての整理を行うことで、重伝建地区をその空間構成と土地利用により分類する。また、各類型の特性や課題について整理を行い、その空間的傾向や課題を明らかにする。

1.3 研究の方法

重伝建地区全件についてまず街路形態(中心街路、分散街路、細街路)による分類を行い(図 1)続いてその土地利用(建築物、道路、自然環境)によって分類を進める(図 2)。

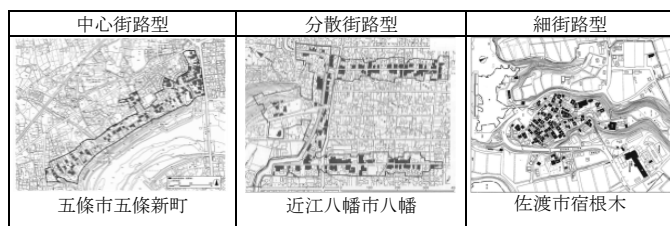


図1 街路形態による分類

2. 街路形態・ウラの土地利用に着目した重伝建の類型化とその特性

重伝建地区のウラの特性に着目して、「ウラに生活の中心が移る」「ウラが重要視される」「ウラに観光補助的な整備がされる」の 3 類型に分類し、その街路形態やウラの土地利用といった空間構成によって類型に当てはまる地域の整理を行い、その課題を示す。

2.1 ウラに生活の中心が移るタイプ(表 1)

短冊状の敷地や、両側町に多くみられる現象で、表通りの景観に影響を与える建築物のファサードの現状変更行為に強い規制を与え、町並み景観に影響の少ない裏側の建築物に対して規制を緩和していることから、保存された表面から、変更行為に対する規制の緩い裏側へ生活の中心が移る現象である。これらの現象を扱った既往研究として、木下・松村らの研究¹⁾、公文・山本・河東らの研究²⁾がある。このタイプの課題として主屋の管理と居住の継や居住実態、主屋保存部の管理や利用実態を解明することの必要性が指摘されている。

2.2 ウラが重要視されるタイプ(表 2)

裏側に文化財として重要な保存物件がある場合や、裏側が川や堀等の場合、護岸景観も含めて裏側が景観上需要になる町並みにおいては、町並みのオモテと同様かそれ以上にウラが重要視されていることがわかる。このタイプでは、建築物の利用実態や居住の方法、管理・利用実態を把握することがオモテ-ウラの価値を維持する上で重要である。さらに、ウラが観光対象となった場合のウラ街路の性質の変化と、それに伴うウラに面する建築物の利用方法の変化、景観に与える影響を把握することが課題として挙げられる。

2.3 ウラに観光補助的な整備がされるタイプ(表 3)

町並みの裏側に観光の補助となる整備が行われるものがある。これは町並みの裏側に便所や駐車場、観光の補助となる施設を整備するものや、町並みの裏側にバイパス道路を整備するものが当てはまる。このタイプの課題としては、保存されるオモテと観光整備されたウラの関係性を明らかにすること、裏側の実態を明らかにし評価すること、表保存-ウラ整備という構成のなかでの住宅の利用実態、保存状態を明らかにすることが挙げられる。

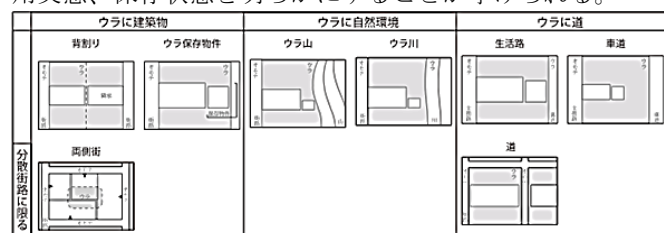


図2 土地利用による分類

表1 ウラに生活の中心が移るタイプ

	都道府県	市区町村	名称	種別	街路形態	隣家	生活路	車道	保存物件	川	山
1-1	北海道	函館市	元町・末広町	港町	分散街路	○					
1-2	青森県	黒石市	中町	商家町	中心街路	○					
1-3	茨城県	桜川市	真壁	在郷町	分散街路	○					
1-4	栃木県	栃木市	嘉右衛門町	在郷町	中心街路	○					
1-5	群馬県	桐生市	桐生新町	製織町	中心街路	○			○		
1-6	埼玉県	川越市	川越	商家町	中心街路	○					
1-7	千葉県	香取市	佐原	商家町	分散街路	○				○	
1-8	富山県	高岡市	山川筋	商家町	中心街路	○					
1-9	富山県	高岡市	金屋町	鋳物師町	分散街路	○					
1-10	石川県	金沢市	東山ひがし	茶屋町	分散街路	○				○	
1-11	石川県	金沢市	主計町	茶屋町	中心街路		○				
1-12	石川県	金沢市	卯辰山麓	寺町	分散街路	○					
1-13	石川県	金沢市	寺町台	寺町	分散街路	○					
1-14	石川県	輪島市	黒島地区	船主集落	分散街路	○	○				
1-15	石川県	加賀市	加賀橋立	船主集落	分散街路	○					○
1-16	石川県	白山市	白峰	山村集落	分散街路	○	○				
1-17	福井県	小浜市	小浜西組	商家町	分散街路	○	○				
1-18	長野県	塩尻市	奈良井	宿場町	中心街路	○					
1-19	長野県	塩尻市	木曾平沢	漆工町	分散街路		○		○		
1-20	長野県	東御市	海野宿	宿場町	中心街路		○		○		
1-21	岐阜県	高山市	三町	商家町	分散街路	○					
1-22	岐阜県	高山市	下二之町大新町	商家町	分散街路	○					
1-23	岐阜県	美濃市	美濃町	商家町	分散街路	○					
1-24	岐阜県	恵那市	岩村町本通り	商家町	分散街路	○					
1-25	岐阜県	群上市	群上八幡北町	城下町	分散街路	○	○			○	○
1-26	愛知県	豊田市	足助	商家町	分散街路		○			○	
1-27	三重県	亀山市	関宿	商家町	中心街路		○				
1-28	滋賀県	近江八幡市	八幡	商家町	中心街路	○			○		
1-29	京都府	京都市	産寧坂	門前町	分散街路	○					
1-30	京都府	京都市	祇園新橋	茶屋町	分散街路	○	○				
1-31	京都府	与謝野町	加悦	製織町	中心街路	○	○				
1-32	大阪府	富田林市	富田林	寺内町	分散街路	○					
1-33	兵庫県	豊岡市	出石	城下町	分散街路	○					
1-34	兵庫県	篠山市	篠山	城下町	中心街路		○				
1-35	奈良県	橿原市	今井町	寺内町	分散街路	○					
1-36	奈良県	五條市	五條新町	商家町	中心街路		○		○	○	
1-37	奈良県	宇陀市	松山	商家町	中心街路	○	○			○	○
1-38	和歌山県	湯浅市	湯浅	醸造町	分散街路	○	○				
1-39	鳥根県	津和野町	津和野	武家町	分散街路	○					
1-40	岡山県	倉敷市	倉敷川畔	商家町	分散街路		○				
1-41	岡山県	津山市	城東	商家町	中心街路			○			
1-42	広島県	竹原市	竹原地区	製塩町	分散街路	○	○				○
1-43	山口県	萩市	浜崎	港町	分散街路	○					
1-44	徳島県	美馬市	脇町南町	商家町	中心街路	○	○	○		○	
1-45	愛媛県	西予市	宇和田卯之町	在郷町	中心街路	○					
1-46	高知県	室戸市	吉良川町	在郷町	分散街路	○					
1-47	愛媛県	内子町	八日市護国	製紙町	中心街路		○				○
1-48	福岡県	八女市	八女福島	商家町	分散街路	○					
1-49	福岡県	八女市	黒木	在郷町	中心街路		○		○	○	
1-50	福岡県	朝倉氏	秋月	城下町	分散街路		○				
1-51	佐賀県	鹿島市	浜庄津町浜金屋町	在郷町	分散街路	○					
1-52	佐賀県	鹿島市	浜中町八本木宿	醸造町	中心街路	○					
1-53	佐賀県	嬉野市	塩田津	商家町	中心街路		○			○	
1-54	佐賀県	有田町	有田内山	製磁町	中心街路		○				
1-55	大分県	日田市	豆田町	商家町	分散街路	○					
1-56	宮崎県	日向市	美々津	港町	分散街路	○					
1-57	鹿児島県	薩摩川内市	入来麓	武家町	分散街路	○					

注)重伝建地区全 104 件のうち、細街路型に分類されるもの、武家屋敷などオモテ-ウラの関係をもたないもの、実態の把握ができなかったものを除く全 63 件について街路形態、土地利用による分類を行った。

表2 ウラが重要視されるタイプ

	都道府県	市区町村	名称	種別	街路形態	隣家	生活路	車道	重要物件	川	山
2-1	栃木県	栃木市	嘉右衛門町	在郷町	中心街路		○		○	○	
2-2	群馬県	桐生市	桐生新町	製織町	中心街路		○		○		
2-3	埼玉県	川越市	川越	商家町	中心街路		○		○		
2-4	千葉県	香取市	佐原	商家町	分散街路	○			○	○	
2-5	石川県	金沢市	東山ひがし	茶屋町	分散街路	○			○		
2-6	石川県	金沢市	主計町	茶屋町	中心街路		○		○	○	
2-7	長野県	塩尻市	木曾平沢	漆工町	分散街路		○		○		
2-8	長野県	東御市	海野宿	宿場町	中心街路		○		○		
2-9	岐阜県	郡上市	郡上八幡北町	城下町	分散街路		○		○	○	○
2-10	愛知県	豊田市	足助	商家町	分散街路		○		○	○	
2-11	滋賀県	近江八幡市	八幡	商家町	中心街路	○			○	○	
2-12	京都府	伊根町	伊根浦	漁村	中心街路				○		
2-13	奈良県	五條市	五條新町	商家町	中心街路				○	○	
2-14	和歌山県	湯浅町	湯浅	醸造町	分散街路	○	○	○	○	○	
2-15	鳥取県	倉吉市	打吹玉川	商家町	中心街路				○	○	
2-16	山口県	萩市	浜崎	港町	分散街路	○			○		
2-17	徳島県	美馬市	脇町南町	商家町	中心街路		○	○		○	
2-18	福岡県	八女市	黒木	在郷町	中心街路		○		○	○	
2-19	福岡県	うきは市	筑後吉井	在郷町	分散街路				○	○	
2-20	佐賀県	鹿島市	浜中町八本木宿	醸造町	中心街路	○			○	○	
2-21	佐賀県	嬉野市	塩田津	商家町	中心街路		○		○	○	○

表3 ウラに観光補助的な整備がされるタイプ

	都道府県	市区町村	名称	種別	街路形態	隣家	生活路	車道	保存物件	川	山
3-1	福井県	若狭町	熊川宿	宿場町	中心街路			○			○
3-2	長野県	南木曽町	妻籠宿	宿場町	中心街路			○			○
3-3	京都府	京都市	嵯峨島居本	門前町	中心街路			○			○
3-4	和歌山県	湯浅町	湯浅	醸造町	分散街路		○	○	○	○	
3-5	岡山県	津山市	城東	商家町	中心街路		○	○			
3-6	徳島県	美馬市	脇町南町	商家町	中心街路		○	○		○	
3-7	福岡県	朝倉市	秋月	城下町	分散街路		○	○			
3-8	佐賀県	嬉野市	塩田津	商家町	中心街路			○			○

3. まとめ

本稿では、重伝建の個別のウラの現象や課題について、街路形態・ウラの土地利用形態といった空間構成に着目することで、3つの典型的なタイプに整理できた。

ここでは、「ウラに生活が移る」「ウラが重要視される」「ウラに観光補助的な整備がされる」の3類型を示し、それぞれについて空間構成の共通点を示した。整理された段階で、各事例のウラの整備の実態や建築内部の利用実態を扱うことで、類型ごとの共通の課題や整備方法の一定の共有化が可能であり、従来のオモテ重視の街並み保存理論や、町の機能に着目した分類では見落とされた問題の発掘や現代の課題に対応する方法が顕在化する可能性があると考ええる。

参考文献

- 1) 松村有紹、木下光、丸茂弘幸:生活重視型町並み保存における伝統家屋の現状変更行為の類型と空間構成の変化に関する研究-三重県亀山市関町「関宿重要伝統的建造物群保存地区」を事例として-,日本都市計画学会都市計画論文集, N0. 42-3, pp. 103-108, 2007. 10
- 2) 公文暁、山本明、河東義之:伝統的居住環境に対する住民の選好-高山市三町市区を事例として-,日本建築学会計画系論文集, 第 565号, pp233-240, 2003. 3

*比奈本洋太 神戸大学大学院工学研究科大学院生・修士(工学)
**川崎直哉 金翔賢 神戸大学工学部4年生
***山口秀文 神戸大学大学院工学研究科助教・博士(工学)
****山崎寿一 神戸大学大学院工学研究科教授・博士(工学)

* Student, Graduate School of Eng., Kobe Univ. M. Eng.
** Student, Dept. of Eng., Kobe Univ.
*** Assistant Prof., Graduate School of Eng., Kobe Univ. Dr. Eng.
**** Prof., Graduate School of Eng., Kobe Univ. Dr. Eng.